

■ 編 集 委 員

池淵 研二（委員長）

赤塚 俊隆 伊崎 誠一 小山 勇 仁科 正実 野村 正彦 町田 早苗 松下 祥
御手洗哲也 渡辺 修一 （五十音順）

■ 編 集 後 記

埼玉医科大学雑誌の編集後記を書く時期がバンクーバー冬季オリンピックの開催時期と重なったため、なかなか筆が進まないで困っていた。国際医療センターの通院治療センターで血管再生治療のための末梢血単核球採取を行っていた時間帯に、ちょうど女子フィギアスケートのテレビ放送が重なり、通院治療中の患者さんの殆どが液晶テレビ画面に釘付けになっていて、私も便乗させてもらい日本選手の競技の画面に見入ってしまった。応援していた浅田真央選手が銀メダルを取り、ちょっと残念な気持ちにもなったが、あの若さと高い技術、圧倒される観衆の注目の中で平常心を維持できる強い精神力を持つ彼女は、きっと次回も活躍されると期待しつつ、ようやく編集後記を書く準備ができてきた。伸び盛りの若者がその実力を発揮できるための環境整備、彼らにとって働きやすい大学と大学病院であるように、私たちの世代はまだまだ頑張らないといけないと再度確認したい。

またちょっと信じられないような事件、世界の最先端を走っていた日本のトヨタがブレーキの電子制御システムの不具合のためリコール宣言し、国際的にも訴追されている時期とも重なった。社長は何事も過信してはならないと再確認し、常に消費者の目線で車造りに努力することを宣言されていた。埼玉医科大学雑誌についても当てはまることだが、従来型の雑誌を継続維持することで良しとするか、常に斬新な企画を編み出して読者に新鮮な感じに映る雑誌に変身させていかないといけないのか、一度編集委員内で議論してみる必要性を感じた。

さて今回の雑誌は原著1編、Thesis1編、その他、特別講演の紹介、医学研究センター各部門の活動計画、資料として輸血忌避患者対応マニュアル改訂、など掲載することができた。特別講演として選ばれたテーマのうち4つが再生医療に関わるテーマとなっており、再生医療に対する高い関心の様子が伝わってくる。

（池淵研二）

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第36巻 第2号

編集責任者 池淵 研二

平成22年3月15日 印刷

平成22年3月31日 発行

発行所 埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102(直通) FAX 049(276)1964 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制 作 株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741(代) <http://www.atene.co.jp>